

未来を創る研究開発の最前線

当社は成長をけん引する半導体関連製品をはじめ、社会的ニーズの高い環境配慮製品などの開発を積極的に推進しています。今号では、3月に発売した環境配慮ラベル素材のほか、新製品・新事業の創出に向けた研究所での取り組みをご紹介します。

ホットメルト粘着剤を使用したラベル素材の新製品「RE CHILL」^リ_{チル}を発売

ホットメルト粘着剤とは、熱で溶かしながら塗工する常温固形タイプの粘着剤のことで、塗工時に有機溶剤を使用しないため環境負荷が少なく、乾燥工程も不要なことから製造時のCO₂排出量が少ないことが特徴です。米国子会社のマックタック・アメリカ社が保有する粘着剤処方技術で、当社では同社が展開するラベル素材「CHILL AT」^{チル}_{エーティー}を国内市場に本格投入して以降、同粘着剤を使用した製品ラインアップを順次拡大してきました。

今回発売した「RE CHILL」の特徴は-5℃までの低温環境下でも貼付可能で、繰り返し貼って剥がせる再剥離性・再貼



食品や日用品、工業用品など幅広い用途に使用可能

付性を持つことです。一般のラベル素材では貼り付きにくい結露面や油面に貼付可能で、使用後は剥がしやすいため容器などのリサイクル促進にもつながります。多機能性を生かし、幅広い用途に提案しています。



製品研究部 粘着材料研究室

まえだ たいせい
前田 泰聖

“若手開発担当者”より一言

「RE CHILL」の開発では、繰り返し使用するための粘着力と再剥離性を両立させるために粘着剤の最適な処方比率を導き出すことが、大きなテーマになりました。機械学習ツールを活用して粘着剤の材料種が性能に与える影響を解析するなど、経験や勘だけに頼らない開発手法を取り入れることで、最短ルートで発揮したい性能を実現することができました。今回の製品化に満足せず、さらなる改良を重ねることで、ホットメルト粘着剤を用いた製品の可能性を広げていきます。

新製品・新事業の創出へ、キーワードは “イノベーション”

■ 研究員の自由な発想を尊重

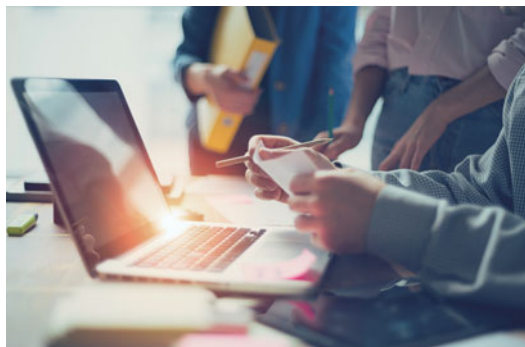
当社が業界のトップランナーであり続けるためには、新技術・新事業の創出に絶え間なく取り組む必要があります。研究所でその中心的役割を担う組織が、イノベーション推進部です。同部署は研究開発活動の最適化や新事業創出のための仕組みづくりを主導しており、その一つに「RIC」があります。R&D Innovation Challengeの頭文字である「RIC」は、新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的・企業的に大

きな変化をもたらすことを目指す研究所独自の取り組みです。研究員が自身の自由な発想に基づく新製品開発や研究開発効率向上などのテーマを設定し、業務時間の30%を上限に、イノベーション活動に挑戦できます。2022年に始まった取り組みですが、国際学会で受賞を果たす技術が生まれたり、生産性向上に役立つシステムが開発・実装されたりするなど、イノベーションへの機運が確実に高まっています。

■ 企業間のコラボレーション活動を強化

外部との共創によるオープンイノベーションにも乗り出しています。インキュベーションセンター「ARCH^{アーチ}」への参画はその一例です。同センターは新規事業の創出をミッションとした施設で、同じ目的を持つ幅広い業種の企業が会員として参加しています。当社は会員企業とのコミュニケーションを通じて共創テーマの発案を試みており、当社が蓄積してきた技術・製品が全く新しい用途や分野における課題解決の糸口になることが分かりました。得られたアイデアは研究所や各事業部門に連携することで、知の共有と事業化への確度を高めています。現代は不確実性の時代と呼ばれ、社会・顧客が求めるニーズも多様化

する中、企業間の共創活動は重要性を増しています。当社は従来から連携してきた大学や研究機関に加え、企業間のコラボレーションも強化することで、多角的視点で新製品・新事業の創出を目指していきます。



連結財務諸表

連結貸借対照表(要約)

(単位: 百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
流動資産	192,767	187,977
固定資産	147,703	145,612
① 資産合計	340,471	333,590
流動負債	69,989	75,918
固定負債	24,355	24,751
② 負債合計	94,345	100,669
③ 純資産合計	246,126	232,920
負債純資産合計	340,471	333,590

連結損益計算書及び連結包括利益計算書(要約)

(単位: 百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
④ 売上高	315,978	276,321
売上総利益	79,844	61,407
販売費及び 一般管理費	55,282	50,779
⑤ 営業利益	24,562	10,628
経常利益	26,090	11,537
税金等調整前 当期純利益	18,753	9,452
⑥ 親会社株主に帰属する 当期純利益	14,476	5,243
包括利益	22,653	11,602

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位: 百万円)	当連結 会計年度	前連結 会計年度
営業活動による キャッシュ・フロー	33,715	39,205
投資活動による キャッシュ・フロー	△24,666	△21,512
財務活動による キャッシュ・フロー	△12,332	△1,288
現金及び現金同等物に 係る換算差額	1,591	1,954
現金及び現金同等物の 期末残高	50,703	52,396

① 「のれん」の減少などがありましたが、「棚卸資産」や「繰延税金資産」の増加などにより、総資産は68億81百万円増加しました。

② 「支払手形及び買掛金」や「長期借入金」の減少などにより、負債は63億24百万円減少しました。

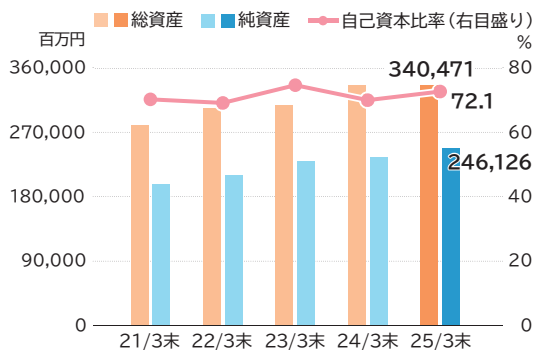
③ 円安の進行による「為替換算調整勘定」の増加などにより、純資産は132億6百万円増加しました。

④ 半導体・電子部品関連製品が好調な需要に支えられ大幅に増加したことに加え、米国においてシール・ラベル用粘着製品の販売数量が回復したことなどにより、売上高は396億57百万円増加しました。

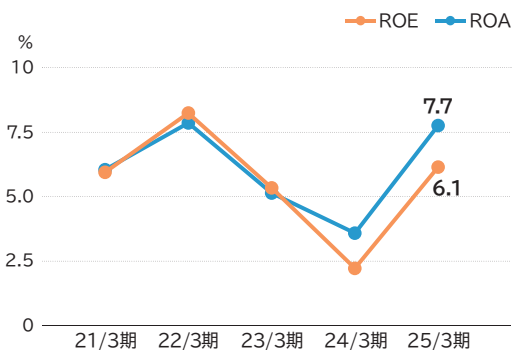
⑤ 原燃料価格や物流コストは引き続き上昇傾向にあったものの、半導体・電子部品関連製品に加えて他の製品についても販売数量が増加したことにより、営業利益は139億33百万円増加しました。

⑥ 洋紙事業において減損損失を計上したものの、営業利益が増加したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益は92億32百万円増加しました。

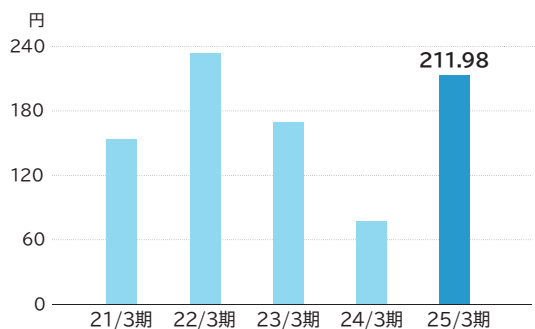
総資産・純資産・自己資本比率



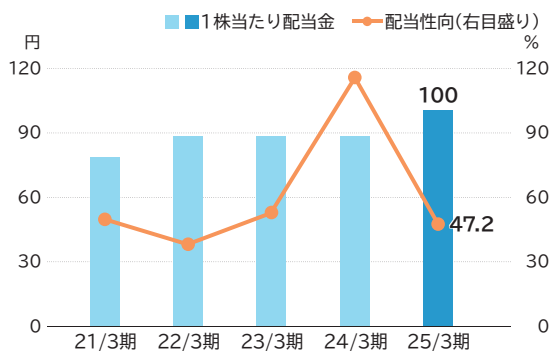
ROE (自己資本当期純利益率)・ROA (総資産経常利益率)



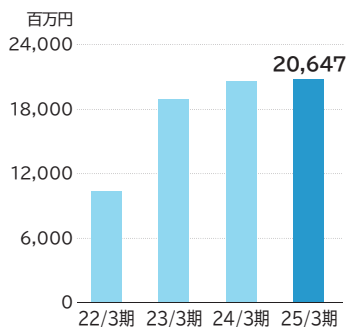
1株当たり当期純利益



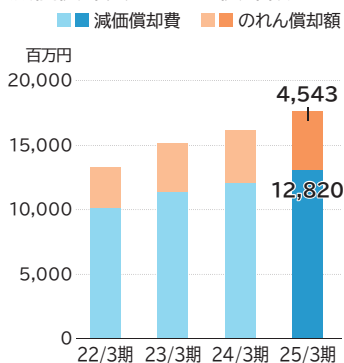
1株当たり配当金・配当性向



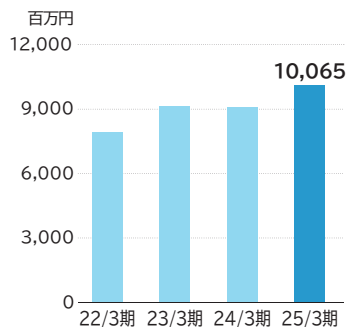
設備投資額



減価償却費・のれん償却額



研究開発費

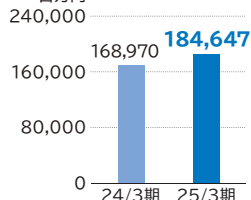


印刷材・産業工材関連(前期比)

売上高 **1,846億47**百万円(9.3%増)営業利益 **54億62**百万円(－)

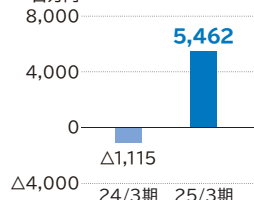
売上高

百万円



営業利益

百万円



印刷情報材事業部門(前期比)

売上高 **1,466億65**百万円(10.1%増)

主要製品

- シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム
- バーコードラベル用粘着紙・粘着フィルム



産業工材事業部門(前期比)

売上高 **379億81**百万円(6.1%増)

主要製品

- 自動車用粘着製品
- 工業用粘着テープ
- ラベリングマシン
- ウィンドーフィルム
- 屋外看板・広告用フィルム
- 内装用化粧フィルム



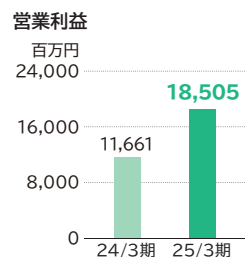
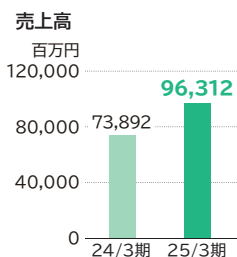
事業部門別の売上高とセグメント営業利益の概況

- 印刷情報材事業部門はシール・ラベル用粘着製品が、国内では物価高騰の影響により食品関連を中心に需要が減少したほか、アイキャッチラベルや飲料キャンペーン用なども総じて低調に推移しました。海外では米国で買収効果により販売数量が大幅に増加したほか、中国やアセアン地域においても堅調に推移しました。
- 産業工材事業部門は国内では自動車生産台数減少の影響を受け自動車用粘着製品やウィンドーフィルムが低調に推移しました。海外では米国で防犯用ウィンドーフィルムやスパッタリングフィルムが好調であったほか、インドで自動車用粘着製品が増加しました。
- セグメント営業利益は米国で販売数量が大幅に増加した効果もあり、前期に比べ増加しました。

電子・光学関連(前期比)

売上高 **963億12百万円** (30.3%増)

営業利益 **185億5百万円** (58.7%増)

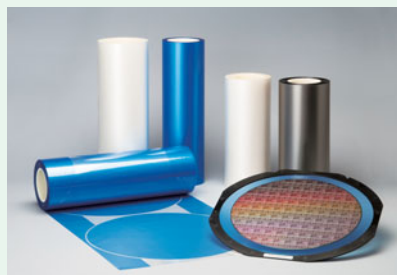


アドバンストマテリアルズ事業部門(前期比)

売上高 **850億8百万円** (41.7%増)

主要製品

- 半導体関連粘着テープ
- 半導体関連装置
- 積層セラミックコンデンサ関連テープ



オプティカル材事業部門(前期比)

売上高 **113億3百万円** (18.8%減)

主要製品

- 光学ディスプレイ関連粘着製品



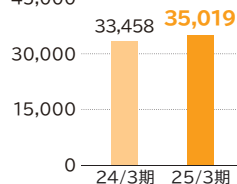
事業部門別の売上高とセグメント営業利益の概況

- アドバンストマテリアルズ事業部門は半導体関連粘着テープが生成AI関連の需要増加などにより好調に推移しました。また、半導体関連装置についてもHBM製造用などで大幅に増加しました。積層セラミックコンデンサ関連テープはスマートフォンやデータセンター向けなどの需要増加により大きく伸長しました。
- オプティカル材事業部門はOLEDスマートフォン用粘着テープが堅調であったものの、韓国・台湾子会社の閉鎖の影響もあり売上高は大幅に減少しました。
- セグメント営業利益は半導体関連粘着テープや装置の売り上げが増加したことにより、前期に比べ増加しました。

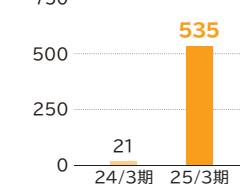
洋紙・加工材関連 (前期比)

売上高 **350億19**百万円 (4.7%増)営業利益 **5億35**百万円 (2,443.1%増)

売上高

百万円
45,000

営業利益

百万円
750

洋紙事業部門 (前期比)

売上高 **148億76**百万円 (3.0%減)

主要製品

- カラー封筒用紙
- 色画用紙
- 特殊機能紙
- 高級印刷用紙
- 建材用紙



加工材事業部門 (前期比)

売上高 **201億42**百万円 (11.1%増)

主要製品

- 粘着製品用剥離紙
- 光学関連製品用剥離フィルム
- 合成皮革用工程紙
- 炭素繊維複合材料用工程紙



事業部門別の売上高とセグメント営業利益の概況

- 洋紙事業部門はクリーンペーパーや耐油耐水紙が堅調に推移したものの、主力のカラー封筒用紙や色画用紙、建材用紙が需要減少により低調に推移しました。
- 加工材事業部門は電子材料用剥離紙や光学関連製品用剥離フィルムがスマートフォン用などの需要増加により好調に推移したほか、合成皮革用工程紙やレジャー用の炭素繊維複合材料用工程紙も増加しました。
- セグメント営業利益は洋紙事業部門が厳しい結果となりましたが、加工材事業部門の販売数量増加などにより、前期に比べ増加しました。

※ セグメント別の営業利益はセグメント間取引消去前の数値に基づいています。